

がんばろう 南三陸町 復興第78号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
企画・編集
志津川広報センター

未来の南三陸のまちづくり



志小6年生が学習発表を行なった

平成30年12月12日午前11時から南三陸本庁舎「マチドマ」に於いて、志津川小学校6年生が総合学習の時間で調査した事を一般町民や家族、役場職員の前で発表した。

1回目は11時から15分で4つのブースで、A観光・B福祉・Cスポーツ・D環境、2回目は11時15分から15分でA3つの認証・B産業・C国際交流・D防災の8つのテーマについて調べた事を15分ずつ発表し、発表後は時間内で質問にも応じた。会場は来場者でいっぱいとなり、場内には子供たちが調べた資料を、パネルに貼り掲示もした。

前半のAブースでは「観光」について、子供たちが平成22年度の観光人口を「140万人」にしたいと、嬉しい発言をいただいた。

後半のCブースの、「国際交流」の発表を聞いた。宿泊や交通、会話・イベントはインターネットなどの活用が必要との話をした。現在は宿泊地として民泊が40軒で、震災前は100軒以上もあった。そして、南三陸町には外国人が多く、観光協会の支援を受けパーティやバーベキュー等での外国人たちとの交流会を提案した。

会話については、英語を話せる人が少なく外国人とコミュニケーションが取れない。趣味を通してスポーツやお茶会などで話す機会をつくる。また、インターネットを活用し、動画発信

で南三陸の事を知ってもらい、そこに町の顔を入れる。交通情報には観光地の車の事も知らせる。楽な気持ちで町に来てもらいたいと話した。

外国の皆さんとは学校での交流で、イギリス・台湾の方と会い、西洋の違いを挨拶で知ったと発表した。

交流の感想を発表した児童に聴くと「会話に不安があったが、ジェスチャーで会話をした。」「外国人は怖いと思っていたが、会話をしたら楽しかった。」「外国人が日本語を話すと安心して交流ができた。」と、語った。

外国へはどこに行きたいか?の質問には、「韓国は韓流が好きだから」「エジプトは歴史が好きだから」「フランスはエッフェル塔が見たいから」「アメリカは、バスケットボールが好きで、一緒にバスケットボールがしたい」「アメリカは自由の女神がみたい」と話す。

父母からの発表会の感想では、「都会にいと多くの外国人に会える、言葉が通じなくてもコミュニケーションができる。」、この発表会で子

13000人を割り込む 南三陸町人口の推移

(平成30年11月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
23年3月	17,064	7,823	2,296	1,884	5,061
30年11月	12,999	5,331	1,424	1,954	4,290
30年8月からの増減数	-57	-30	0	-13	-14
世帯数	4573	2096	471	650	1356

(2018年12月の新聞記事より)

供たちは国際交流の大切さを知った。多くの来場者から、子供たちの発表にたくさんの拍手が送られた。

平成31年出初め式 南三陸町の火災から住民生活を守る



消防関係者400名が集合する

平成31年1月5日(土)午前9時からベイサイドアリーナ駐車場に、消防団員300名、交通指導隊員8名、消防署員30名と町の関係者で400名余りが集合した。

国旗掲揚から、人員報告を行ない式辞では佐藤町長が「安全安心な町づくりに昼夜をとわず取り組み、3件の火災発生におさえ、地域に根差した活動もみられた。熊本地震の発生もあり、日頃からの備えが必要と感じた。」と述べた。

高橋消防団長の訓示では、「今年は猪年ですが諸突猛進ではなく、前後左右を見て、力を合せて町民の命と財産を守っていただきたい。」と語った。

祝辞では、三浦議長と小野寺五典衆議員議員が団員を前に激励の言葉を贈った。

表彰伝達披露では、宮城県知事表彰(自治体消防70周年記念)として、第一分団団長の佐々木正喜さんが勤続31年で表彰された。次に宮城県知事表彰として、消防防災功労で10名が表彰され、宮城県消防協力表彰として41名の団員が表彰された。

最後の観閲では、町長・議長・防火婦人部長が団員の勇姿を確認した。

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年) 10月の出来事
~ 地元報道より ~

南三陸町

◆南三陸病院に1日、新院長初貝和明氏(50)が就任し、町役場で辞令交付式が行われた。外科の診療にあたる。

◆南三陸町は新生児聴覚検査費の助成事業を10月から新たに始めた。今年4月1日以降に生れ、検査を受けた新生児の保護者が対象で、さかのぼって申請することができる。町は本年度の新規事業として予算化したもので、初回検査、異常が見つかった場合の検査とも上限8千円に設定。

◆ベイサイドアリーナで30日、南三陸町福祉・健康まつりが開かれた。会場には町内外の福祉事業所やNPOなど約30団体がブースを設け、活動紹介や障害者ら施設利用者らの手芸品の販売などを行なった。

◆1日南三陸町生涯学習センターの上棟式が、古式にのっとり行なわれた。来年1月完成、4月下旬の開館を目標に工事が行なわれている。センターは木造平屋建てで、木材は南三陸産のものを使用している。

◆30日志津川湾タコまつり復興市が、志津川仮設魚市場で開かれた。タコを使った唐揚げやごはん・ハンバーガー・シチューなどを販売する店のほか、生きたマダコの展示コーナーやしゃぶしゃぶコーナーで、来場者はタコづくしイベ

ントを楽しんでいた。

◆南三陸町の志津川湾がラムサール条約に今月中に新規登録される見通しとなったと、環境省が2日発表した。登録されると、海域の湿地登録は東北では初、海藻、藻場としての登録は国内初になる。藻場を餌場とする天然記念物のコクガンは毎年飛来し、越冬地として重要な湿地としてしられている。

◆30日に南三陸町の町民憲章を題材にした「みんなの町民憲章虹色アートコンクール」の受賞者が決まり、4人の方が大賞を受賞し表彰式が行われた。作品は町内外から232点の応募があり、2~68歳まで幅広い年齢層から寄せられた。

◆南三陸町は家庭ごみの資源化を目的に実証実験に取り組んでいる。町社会福祉協議会の高齢者生活支援施設「結の里」に回収拠点を設け、志津川地区100世帯対象で11月30日まで行う。

◆3日、南三陸町立志津川中学校で企業6社による「キャリアチャレンジデイ」が行なわれ、3年生が進路選択前に各社の仕事や企業が果たす役割などに理解を深めた。

◆気仙沼・本吉地域広域消防防災センターで3日、「警防技術競技大会」が開かれ、南三陸消防署第2部が優勝した。署員の警防技術の向上、習熟度を高めることを目的に開かれている。

◆東日本大震災から交流を続けている志津川高校に、島根県の松江市立女子高校の生徒が3日訪れた。訪れたのは生徒会執行部8人で、志津川高校生徒会の1、2年生役員14人と交流、震災当時のことなどを学んだ。

◆南三陸町はふるさと納税の返礼品を11月から3割以下に変更する。

◆4日南三陸町志津川中学校の1年生が総合学習の「森星海連環学」の一環で、林業について学んだ。今は数少なくなった馬を使って、山から木を搬出する「馬搬」作業を見学した。

◆南三陸町立志津川小学校で10日、5年生が気仙沼信用金庫によるマネースクールで、お金の大切さを学んだ。

◆南三陸町が若者の定住促進を目的に導入したマイホーム取得補助金が人気となっている。40歳未満の夫婦を対象に、建築費の10分の1(上限100万円)を補助している。

◆震災前戸倉地区にあった志津川ネイチャーセンターを、戸倉公民館内に整備することを決定した。公民館の2階の一部を活用し、外側からの階段や海での活動後に使うシャワー室も設ける。

◆南三陸署は、アップルタウン南三陸ショッピングセンターで、買い物を終えて出てくる客らに、犯罪被害や交通事故防止を呼び掛けた。

◆14日、県PTA研究大会南三陸大会が南三陸町ベイサイドアリーナで、開かれた。東日本大震災で町が被災した経験から、「言葉」の持つ意味や力を考えることをテーマに設定。話しかける際に、名前を呼び語尾を明るく発音するだけで、「必ず変化が生まれる」とアドバイスした。

◆南三陸町観光協会は、秋から冬にかけて宿泊客数が落ち込む閑散期対策として、同協会に加入している施設で、11月1日から31年2月28日までの期間に、料金を割引くモニターキャンペーンを始める。

◆南三陸署などが志津川郵便局を訪れた利用者に、特殊詐欺に遭わないよう呼び掛けた。